

1. 本園の教育目標

人間の基礎が培われるかけがえのない幼児期に、整ったよりよい保育環境の中で、豊かで多様な経験を積み、周囲とのかかわりを持ちながら、心身のバランスの取れた子どもたちの育成を目指すという教育理念に基づき、以下の教育目標を掲げるものとする。

- (1) すこやかで、たくましい心身を養う。
- (2) ゆたかな表現力と、創造力を育てる。
- (3) 考える力、考えるよろこびを培う。
- (4) お友達とかかわって遊ぶよろこびを育てる。
- (5) 豊かで多様な経験をすることによって、個性を伸ばし、個々の可能性を見いだす。
- (6) 子どもたちにとって、よりよい保育環境を整備する。

2. 重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を根幹に置き、園の教育理念・教育目標に基づいて、各保育者が教職員間の共通理解をはかる。また保育者自身の保育を見つめ直し、教育の質の向上に努める。さらには、保育内容の改善に主体的に取り組み、本園が担う幼児教育の役割について考えていくことを重点項目とする。

3. 評価項目の設定・取り組み状況

評価項目	有効性の指標	計画の方法、手段	取り組み状況
1 幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標にしたがい、保育カリキュラムを編成する	年間指導計画 週間指導計画 学年会議 職員会議	年間保育カリキュラムの作成 週間指導計画の作成 議事録に記入 議事録に記入	幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標をふまえた年間保育カリキュラムを作成している。さらに学年会議で詳細な週間指導計画をたてている。
2 教職員間での意見交換を充実させる	学年会議 職員会議 行事記録／反省表	議事録に記入 議事録に記入 行事記録／反省表の作成	週1回以上の学年会議、毎月の職員全体会議に加え、各行事のための事前会議や反省会を実施するなど意思伝達の機会を多く設けている。
3 教職員間で園の教育理念・教育目標についての共通理解を図る	学年会議 職員会議 内部監査の是正率 行事記録／反省表	議事録に記入 議事録に記入 内部監査実施報告書に記入 行事記録／反省表に記入	園の教育理念・教育目標を全職員で再確認し、年1回の内部監査を実施することで各自の理解度を図るものとしている。
4 日々の保育を振り返り、各自の保育を見直す	保育指導の検査 週間指導計画の実施結果の不適合件数	主活動サービス検査シートに記入 週間指導計画の実施結果の作成	主活動サービス検査シートに加え、指導計画通りにできているか、また改善点はないかを日々自己評価し、次の保育に活かせるようにしている。
5 園児の個性を読み取り、適宜、個別の保育指導計画を考える	教育目標設定／実施の達成率 幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録) 幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)	品質目標設定／実施報告書に記入 幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)に記入 幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)に記入	個々に応じた園児の発達や興味を伸ばすことで、子どもの成長を援助できるようにしている。また、個々の性格をきめ細かく知ることによって新たな発見を園児と共に共感できるようにしている。
6 教職員の質の向上のために、園内外での研修実施・参加を充実させる	職員研修の実施状況	職員研修計画／報告書に記入	各教科の園内研修に加えて園外研修にも進んで参加し、各研修資料を職員全員で精査することで各々の質の向上をはかる。

7	教育環境の整備をはかる	是正処置の効果	是正処置報告書の作成	預かり保育の送りのバスコースを2便としている。課外プログラミング教室を新たに設け、課外教室の充実をはかる。また地球温暖化の影響を受け、行事や戸外あそびなどの時間調整を行い、ピロティの活用を行う。夏季のプールの水温が高くなってきているので、次年度には水温冷却装置の設置を講じるようにする。
		正課特別指導記録簿	正課特別指導記録簿に記入	
		アウトソースへの指示件数	アウトソース指示票の作成	
		課外教室活動記録簿	課外教室活動記録簿に記入	
8	園児の成長を援助するためにも、園と家庭との連携をはかり、細かな情報でも共有できるようにする	保護者アンケートの結果	保護者アンケートの実施	保育者は保護者との連絡を密に取り、園児に関する細かな情報の提供、取得をする。その結果を園児の成長に繋げていけるように努める。また保護者ニーズを日々の保育に取り入れるための工夫も考えていく。
		リレーションシップ記録表	リレーションシップ記録表の作成	
9	園舎等の施設・設備について安全点検をし、幅広い資料を取得して安全な保育環境を維持する	予防処置の件数	予防処置報告書の作成	安全な保育環境を継続していくために、アウトソースも含めた職員が一体となって日々の点検を行う。教育サービスを含め、安心感のあるサービスを提供するためには個々の職員が予防処置を提唱することが不可欠である。

4. 評価項目の結果

評価項目		有効性の指標	目標値又は不適合件数	実績値	評価結果(考察、所見)	改善処置の要否
1	幼稚園教育要領および園の教育理念・教育目標にしたがい、保育カリキュラムを編成する	年間指導計画			年間保育カリキュラムに基づき、週間指導計画が作成でき、各会議で決められた内容が保育現場で活用することができた。	要・ ☐ 否
		週間指導計画				
		学年会議				
		職員会議				
2	教職員間での意見交換を充実させる	学年会議			学年会議、職員会議や各行事の反省会が保育全般に浸透できた。	要・ ☐ 否
		職員会議				
		行事記録/反省表				
3	教職員間で園の教育理念・教育目標についての共通理解を図る	学年会議			内部監査での不適合は0件、注意・観察事項も0件であった。行事でも不適合は0件であった。	要・ ☐ 否
		職員会議				
		内部監査の是正率 行事記録/反省表	是正率90%以上 3件以下	100% 0件		
4	日々の保育を振り返り、各自の保育を見直す	保育指導の検査(主活動サービス検査)	20件以下	0件	主活動サービス検査シートならびに週間指導計画の実施結果でも不適合は0件であった。尚、いずれも目標値の見直しが必要である。	要・ ☐ 否
		週間指導計画の実施結果の不適合件数	10件以下	1件		
5	園児の個性を読み取り、適宜、個別の保育指導計画を考える	教育目標設定/実施の達成率	達成率85%以上	97.4%	園児個々の発達や興味を伸ばせている結果となっており、達成率は90%を超える高いものとなった。	要・ ☐ 否
		幼稚園幼児指導要録(指導に関する記録)				
		幼稚園幼児指導要録(学籍に関する記録)				

6	教職員の質の向上のために、園内外での研修実施・参加を充実させる	職員研修の実施状況	30回以上	34回	園内研修を軸として保育レベルの維持に努めることができた。外部研修では多彩な研修を受講でき各自のレベルアップに多いに寄与することができた。	要・ ☒ 否
7	教育環境の整備をはかる	是正処置の効果	効果率90%以上	100%	特別指導科目と課外教室での不適合はなかった。アウトソースへの指示の内1件は警備会社への指示、もう1件はスクールバス運行委託業者への指示ではあったが、園児に直接影響する内容のものではなかったが、限りなく0に近づけるように努力する。	要・ ☒ 否
		正課特別指導記録簿				
		アウトソースへの指示件数	5件以下	2件		
		課外教室活動記録簿				
8	園児の成長を援助するためにも、園と家庭との連携をはかり、細かな情報でも共有できるようにする	保護者アンケートの結果			保護者アンケートやリレーションシップ記録表を参考にし、保護者との関係づくりをすることができた。その結果が、園児の成長の援助に繋げることができたと思われる。	要・ ☒ 否
		リレーションシップ記録表				
9	園舎等の施設・設備について安全点検をし、幅広い資料を取得して安全な保育環境を維持する	予防処置の件数	3件以上	3件	予防処置をすることで、園児に安全な保育環境を整備することができた。ただし、目標件数をクリアできたが、更に予防処置に値する案件が多数提出されるように心がける。	要・ ☒ 否

5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全職員が自己評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も継続して客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した保育実践ができるように努力を積み重ねて欲しい。職員研修では内部研修にとどまらず、外部研修にも目を向けて対面研修・録画研修にかかわらず積極的に多方面な研修を受講することが望ましい。またコーチング内部研修の成果として職員間でのコミュニケーション能力が高くなり、意思伝達がスムーズにできてきたように感じる。

施設・設備面での環境整備においては、子ども達の安全を第一に考えたうえで、豊かな教育を実践できるように整備している。また教育サービスにおいては、保護者の方々の安心と満足を念頭に置いた保育の実践を積み重ねた結果、子ども達の能力の向上に結び付けていくことができたと思える。

現段階としての急な改善処置の必要性は見られず概ね目標を達成できたと思われるが、更なる教育活動の向上を目指す上で、都度改善を重ねていくとともに予防処置の件数も増やしていきたい。

次年度より通級クラスが設置されるにあたり公認心理士の講師の指導のもと、児童発達支援管理責任者や児童指導員とともに子ども達の成長の一端を担うことができるように努力していきたい。その結果を土台として、インクルーシブな保育環境の整備を目標とする。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員間での協力・連携	各学年内での共有体制の確立、次に園全体での共有を厳格にする。そして学年にかかわりなく、他の学年のカリキュラム内容も把握し、保育面での更なる協力体制を構築できるようにする。またフリー教員、保育補助教員の効率的な配置をすることでより高い保育を目指す。
特別支援教育	通級クラスの効果的な活用を講じる。通常保育室で加配教員による個別にかかわる保育だけではなく、通級クラスで一定時間、3～4人の少人数でのサポートを行う。園と同じ環境でサポートすることにより、集団生活での困りごとや一人ひとりの課題に沿った内容でトレーニングを行えると考えている。
預かり保育	預かり保育の実施方法の見直しに対応すべく、今後も担当教員の配置方法や園児の年齢なども視野に入れて適宜改善を講じるようにする。また食物アレルギー園児のための預かり保育時の「おやつ」の選定に苦勞しているが、今後も継続して工夫をしながら、おやつ購入を考えていきたい。
職員研修	内部研修は例年通りの回数を実施できた。外部研修では録画研修も含め受講回数を増やしていく努力が必要である。

7. 学校関係者の評価

評 価 項 目		適 否
1	自己評価の結果内容が適切かどうか	○適・否
2	自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか	○適・否
3	重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目が適切かどうか	○適・否
4	学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか	○適・否
5	公開保育の内容が適切かどうか	○適・否
公開保育の結果について		
「子どもの考える力や創造性を育てる保育を考える」という公開保育のテーマは、現代ではAIを使うことで色々な可能性を見出せる反面、考える力が低減するのではないかという教育不安を払拭する期待感があります。英語指導システムサイバードリームを使用した保育では、2歳児であっても興味を持って参加している姿に感動を覚えました。また2歳児の子ども達が教材「ぼこぼこ」をしている様子は、まさにピアジェが提唱していた「知能は言葉より早く発達する。しかもその知能は論理的である」ということを証明しているように感じました。今回は2歳児と3歳児の子ども達を対象にした公開保育でしたが、2歳児～5歳児までを対象にし、年齢別単元をこなす様子も拝見したいと思います。今回の公開保育の結果を礎とし、日々の保育に役立てて欲しいものです。		
総 評		
通級クラスを設けるなど、インクルーシブな保育環境の整備を実践目標にされています。安心で安全な保育環境でありつつ、子ども達を中心に考えられた園づくりを目指されています。多彩な行事は、子ども達の喜びと楽しみだけではなく将来の可能性を生み出すものと思われます。教職員の方々が子ども達の笑顔のために、保育に取り組む様子が感じ取れます。また子ども達の興味・趣向や能力をわかりやすくチェックするシートや日々の保育結果を自己評価する検査シートがあります。これらのことは以前の引き継ぎ内容ではありますがより精査された内容で実現されていると思われます。 先生方が保育に対する意欲や技術を伸ばせるための様々な保育資料・教育材料の提供、そして園内外の多くの研修参加があります。さらに職員間のコミュニケーションづくりにも工夫が見られます。加えて多様な外部講師の登用により、音楽・体育・英語などの保育指導が高いレベルになるようにされています。これらのことは先生方にとっても負担の少ない職場環境となり、結果として充実した保育環境に繋		

がっているものと察します。働き方改革も推し進められ、今後も現在の保育水準を維持し、かつ向上されることを望みます。

8. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。